

『誰もがみんな元気で 安心して暮らせる加西』について

一般質問



植田 通孝 議員
(自民の風・誠真会)

問 まず、「加西市歩くまちづくり条例」を提案していただいたことに対し心よりお礼申し上げます。熟読させていただきましたが、条例のプロローグがすばらしくて感動いたしました。私の思いと完全に一致しております。あとはいかにして市民運動につなげるかだと思います。

社会保障費と保険料の削減は、その恩恵に預かる者が自助努力して成し得るものであり、同時に

心と体の健康づくりが促進できる「歩き」は、お金はかからないし友達はできるし、四季折々の草花を愛でることができるし、風の香り、雲の動き、日々違った朝焼け夕焼けが堪能できます。

そこで、この「加西市歩くまちづくり条例」をいかにして市民全体に知らしめ、市民の日々の日課として「歩き」を位置づけようとしているのか、市長にお尋ねいたします。

答 条例を提出させていただいて、私の意欲を示させていただいたとおります。議員も歩くことが、健康にいいという効果については共通の思いだと思っております。

私も市長に就任し、スマートウェルネスシティ推進の首長会議

が主催されておることを知り、その理念に全く共鳴いたしました。

本当に今まで健康のためにいろんなアプローチを市民の方にしてみましたが、やはり限られてしまうということが大きな問題でございました。それを市民の方どなたもが、普通に生活をしておれば歩いてしまうことによって健康になってしまうと、そういうまちにしたいということで、その理念をまず広めることは当然重要であります。これは広く市政全般にわたって取り組んでいかなければならないということで、条例案が承認されましたら、すぐに庁内にも検討委員会を設置して、具体的に何をやっていくかということをしつかりまとめ、政策として提示してまいります。

加西市長の施政方針、 加西病院の今後の運営について

一般質問



衣笠 利則 議員
(21 政会)

問 施政方針について、今からの加西市がどのような方向に進んでいくのか市民に理解できるように詳細に。

答 加西の元気力の追求ということを総合計画でもうたっており、そのことがすべての基本となっております。客観的な住みよさの1つの数値として、住みよさランキングでは2010年では

813市区の中で558位、一昨年では379位に、そして昨年では103位になり、加西の底力がもっとあり元気力が数値に出てきていると感じています。加西市の良さをどんどん全国に発信をして、加西市に注目してもらおうということが今から大切であると思っており、注目をしていただける要素が加西市には大変多くあると思っており、具体的な施策を実現するために頑張りたいと考えています。

問 高齢化社会を現実を迎え、市民にとっての病院、そして、唯一の総合医療機関として加西市立病院を残していかなければなりません。病院の現状と将来について。

答 平成23年度から25年度にかけて、外来患者数は約14万7,200人、14万7,700人、13万9,600人、入院患者数は約8万2,100人、7万6,900人、8万人と年々減少しており、北播磨圏域内でも、病院間の競争というふうなものが激化してきており、加西病院の置かれている立場も非常に厳しい状況になってきています。市民の皆様に信頼され、安心して利用していただける病院を目指すために、なお一層頑張っていきたいと考えています。

■その他の質問項目

- ・グリーンパーク善防の運動施設について（同僚議員の質疑があり、総合的な施設として整備を進めたいとの答弁をいただいております）